

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と職員により作られたかみやまだ敬老園の理念がある。職員会議には必ず唱和し、理念を共有し日々のケア・業務を行っている。	法人の三つの理念やホーム独自の理念については来訪者にも分かりやすいように玄関などの壁面に掲示し、スタッフ会議の席上で唱和を行い共有と実践に繋げている。法人の理念には「質の良い介護」「心と心の結びつき」などが謳われており、また、「一人一人の気持ちを大切に、その人らしい生活を支援していきます」というホーム理念に沿い、地域に根差し、利用者 と 職員が共に暮らしている。職員は理念の持つ意味を理解し理念に沿って業務に当たっているかどうかお互いに注意し合いながら、利用者本位の生活を大切にしている。家族に対しては入居時に理念に沿った活動について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議や地域の清掃活動・防災訓練などに参加しつながりを持っている。	開設以来23年間、地元自治会に会費を納め、案内も頂き、参加出来る行事には顔をだし、地域に密着したグループホームとして活動している。年2回実施される地区の清掃活動や地域の防災訓練にも、地域の一人として可能な限り参加している。また、今年度、9月の認知症月間には、地域包括支援センター主催の展示会でホームの様子をパネルにして紹介したという。傾聴や草笛などの各種ボランティアの受け入れがあり、敬老会にはボランティアグループによる昔の歌と踊りの披露もあったといい、それぞれ利用者との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	9月認知症月間という事でグループホームの紹介を模造紙にて作成し公共施設にて展示させて頂いた。地域の方に認知症やグループホームの理解に繋がった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し取り組みや状況報告しご意見をいただき、運営に活かしている。	2ヶ月に1回、奇数月に、対面での運営推進会議が開催されている。利用者代表、家族代表、自治会長、地域消防団員、2名の民生児童委員、市高齢福祉課職員、ホーム関係者が出席し、利用状況、行事、事故、職員関係、研修関係等の報告を行った後、ホームへの意見、助言、提案等を頂きサービスの向上に繋げている。同時に身体拘束・虐待防止委員会も毎回行い、3月・9月には避難訓練を委員の方にも体験していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に出席していただき活動報告している。2カ月1回介護相談員が来園して下さるので状況報告している。千曲市介護保険連絡協議会施設部会へ出席している。	市高齢福祉課には事故・ヒヤリハット事例があれば報告し、また、必要に応じ訪問もし、様々な事柄について相談を掛け連携を取っている。市の介護相談員の来訪があり、2ヶ月に1回、利用者と交流し、その内容は管理者に報告され、ホームの運営に活かしている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。市が主催する「介護保険事業者連絡協議会」に参加し、事例研究やケアプランの作成に関わる具体的な研修等も受けている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に開催しテーマを決めて話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は幹線道路に面しており安全確保のためセンサーで出入りが感知できるようになっている。外出願望の強い利用者がある場合は、車でドライブしたり、傾聴に努めるなどの対応をしている。利用者は一日の大半を食堂で過ごしており、職員はきめ細かな所在確認に心掛け、安全に過ごしていただけるようにしている。そうした中、転倒危惧のある方がおり、家族と相談の上、安全確保のため人感センサーを使用している。3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会が開かれ、また、年2回開かれる法人の身体拘束・虐待防止のWEB研修にも参加し、職員は拘束に対する意識を高め支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的に開催している。高齢者虐待防止について、定期的に研修で学ぶ機会を持ち、虐待をしない、見過ごさないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。必要を感じた場合職員間で話し合い関係者に相談していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・改定の際は、契約書面を読みながら充分説明し、質問を受けながら契約締結している。退居の際も住まい替え先の施設と連携をとり、不安なく生活できるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表、家族代表が出席している。市の介護相談員訪問時は入居者がお話しした事など伝えていただき職員皆で共有しケアに役立てている。	利用者全員が意見や思いを伝えることができ、職員も可能な限り速やかに対応している。家族の面会については、現在、制限はなく、フリーに来訪され居室にて歓談されており、週2～3回、見られる家族もいる。そうした中、ホームでの全体の生活の様子は毎月発行されるお便り「グループホーム・かみやまだ敬老園」でお知らせし、一人ひとりの様子については3ヶ月に1回、利用者の担当職員から写真付きのコメントを家族あてに送付している。別途、行事等の写真を撮り貯めた利用者一人ひとりのアルバムを作成しており、家族の面会時に話をしながら見ていただき喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う事業所の会議、毎朝の朝礼や面談にて職員の意見や提案を聞いている。管理者は管理者会議を通し代表者に報告、相談し運営に反映できるよう努めている。	月1回、第1木曜日の夕方にスタッフ会議を開催している。統括施設長より本部関連の報告があり、利用者一人ひとりのカンファレンス、各種研修会、行事計画の検討、意見交換等を行い、職員間での意思疎通を図っている。法人として人事評価制度があり、職員は期初に目標管理シートを作成し自己評価を行い、年2回管理者による個人面談が行われモチベーションアップに繋げている。併せて年1回、職員対象にストレスチェックが行われ、メンタルヘルスにも取り組んでいる。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ノートを作成し目標に向け実践できるよう支援がある。また、給与に反映される機会もあるため、張り合いをもって働くことができている。勤続年数に応じたリフレッシュ休暇や地区の職員の交流会など福利厚生が充実し楽しみを持ちながら働くことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には職員の研修や資格取得に対するサポートがあるため、働きながらスキルアップすることができる。現在、事業内研修を毎月計画通り実施しており、皆で学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設部会に参加し地域の同業者さんと交流や意見交換・勉強会の機会があり、自事業所の運営やサービス向上に役立っている。また、法人内GH部会もあり、他事業所職員と意見交換や勉強会・交換研修などの取り組みがある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時本人にこままっていること、要望などをお聞きする。また家族、ケアマネから意見や要望を伺い、安心して利用して頂けるよう努めている。お聞きした情報を他職員に周知し、全員で対応出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の希望、意向をお聞きしている。初回の様子やご家族の気になる事など送迎時や連絡ノートを使用し不安がないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、居宅ケアマネに事前の情報と事前面談の状況等を踏まえて初回の話し合いの中で確認し、他のサービス等も含め必要とされているサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今までの暮らしの中で引き続き出来る事を職員や入居者と出来るよう支援している。食事作り、食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干し等、ご本人の必要とされているやりがいに繋げる。必ずお礼を伝えている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染のある時を除いては、ご家族との面会や外食、お家に行かれたりと本人と家族の絆を大切に出来るよう過ごす時間を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方、同級生が訪ねてくれたり、昔からの行きつけの美容師さんか来てくださりカットしてもらっている。毎月のお便りの中に近況報告を担当者が記入し送っている。家族と食事会に参加できるように支援している	家族から連絡を頂いている親戚や知人の方の来訪については、家族同様に受け入れており、居室にて歓談されている。知人・友人からの電話の取り次ぎについてもホーム受話器の子機を使い、いつでも話ができるようにしている。また、理美容については2ヶ月に1回、顔馴染みとなった美容師の来訪がありカットをしていただいている。更に、在宅時の行きつけの美容師が来訪して、カットをしていただいている利用者もいる。年末には利用者一人ひとりの年賀状を作成して家族に発送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話しや関係性などを考慮し、席決めや隣の方とお話しやすい場になるように行きつめることを提案して関わりを持っていただけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、困りごとあった際は相談可能のことをお伝えしている。その後も関係先に連絡した際は様子などをお聞きしフォローやお声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの人生の背景を知るためにご本人やご家族にお聞きし、生活意向の把握に勤めている。あくまでも本人の希望を大切にしている。困難な場合は、スタッフ間でカンファレンスを行い検討している。	殆どの利用者が意思表示でき、日々の支援の中で、利用者一人ひとりの思いや意向を確認・把握するようにし、優しく寄り添い提案しつつ、職員は共に行動している。また、表情や仕草からも希望を受け止めるようにしている。日々の気づいた言動等はタブレットの中の業務日誌に入力し、また、申し送りノートにも記入し、出勤時や申し送り時に確認し合い、利用者の意向にできるだけ沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人ひとりの生活歴、習慣の把握に勤めている。生活の中で何気ない会話やご家族との会話、各スタッフの情報を共有しサービスにつなげられるようにしている。住み慣れた地域でと通所から入所になられた方もいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活が出来ただけ継続出来る様に環境を整えている。お一人おひとりの過ごし方や体調・力の現状を記録や申し送り・カンファレンスにて共有し現状把握に勤めている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で課題やご本人の希望について話し合い、介護計画を作成している。また、ご家族と話し合う機会を持ち現状に即したプランを作成している。	職員は1~2名の利用者を担当し、利用者の日々の状況把握、カンファレンス時の状況報告、居室管理、足りない物の補充、家族との連絡等を行っている。入居時や面会時に、入居者や家族の希望を聞き、カンファレンスの席上で意見を出し合い、また、モニタリングも実施しケアマネジャーがプラン作成に取り組んでいる。入居時は暫定で1ヶ月のプランを作成し、様子を見て基本的に短期目標を6ヶ月、長期目標を1年としてプランを作成し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実行表や評価表を活用して、毎日個別記録・日誌・申し送りを記録して気づきや様子を共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、受診の付き添いなど必要な時はサービスを提供している。また、外部のサービスも取り入れている。感染状況を見て、買い物・外食支援も提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の傾聴や草笛ボランティアに入ってもらったり、運営推進会議の委員の方と消防団長や消防署の方に参加して頂いて消防訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望で主治医を決定し、定期受診・また必要に応じ早めの受診につなげている。ご家族や主治医に情報提供・相談をし適切な医療が受けられる支援をしている。	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在、全利用者が入居前からのかかりつけ医への2~3ヶ月に1回の受診対応で家族が同行している。また、受診時には直近の様子について口頭か文書にて医師に伝えていただくよう情報提供している。更に、毎月第1、第3木曜日には契約の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康観察を行い、併せて医療機関との連携が図られている。歯科については月1回、訪問歯科の来訪があり、診療と共に口腔ケアの指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の訪問看護ステーションと契約をし、月2回の健康観察と随時の訪問・相談をして助言を受けている。必要時は医療へつなげている。訪問時は、事前に情報提供を記入し伝えていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院へ情報提供をし安心して入院治療ができるようにしている。入院期間中は退院に向け、病院関係者の方より随時情報を提供していただき、早期の退院と受け入れができるよう関係作りをしている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族と緊急時や終末期について話し合い意向を確認している。また、随時心身の状態を報告し、必要なサービスの検討をし地域の事業所と連携を持ち支援している。	重度化に対する指針があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。食事や入浴が難しい状況となり終末期を迎えた時には家族、医師、ホーム職員で話し合い、家族の意向を確認の上、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。また、看取りを希望されない場合にもホームとして出来る限りの支援に取り組み、医療機関も含め法人内の他施設や近隣の特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援に取り組んでいる。年1回看取り研修会を行い、ホームとしてできる支援について備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心拍蘇生、AED使用の救急救命講座を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間を想定した避難訓練と年1回防災訓練を実施している。避難口や消火器の使用方法など確認し職員皆が防火・防災意識を高めるようにしている。	年2回消防署へ届け出の上、また、運営推進会議に合わせて防災訓練を実施している。3月には夜間と土砂災害を想定し、水消火器を使っての消火訓練、利用者全員玄関先の駐車場まで移動しての避難訓練、通報訓練、緊急連絡網の確認訓練を行っている。9月には昼間と地震を想定し、避難訓練、消火訓練、通報訓練を行い、防災意識の向上に努めている。また、9月の訓練には共用型通所デイサービスの利用者も参加している。非常時に備え「水」「アルファ米」「カセットコンロ」「介護用品」などを蓄えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や身体拘束・虐待防止の研修を受け、声掛けや対応が尊厳を尊重しているものかスタッフ同士で話し合いをしながら良い支援に繋がるように努力をしている。	わかり易い言葉でハッキリ、ゆっくりと、目線を合わせて話しかけることにより、利用者が安心して日々の生活を送れるようにしている。声掛けについては利用者や家族の希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、入室の際には「失礼します」の声掛けを忘れないように徹底している。浴室やトイレについては、使用中、カーテンで仕切るなどプライバシーに配慮している。入浴時や排泄時の介助についても同性介助を基本としている。そうした中、年1回、「法令遵守、人権、虐待防止」についての研修会を行い、意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように働きかけや声掛け等行いご利用者様の思いや意思を大切に考える。意思表示が困難な方は表情、仕草などから読み取るようにしご利用者の意思を汲み取れるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望を聞いたり、スタッフ同士で話し合いをしながらご利用者様のペースを大事に支援している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回、美容師の方に来て頂き本人希望に沿って整髪してもらう。また、行きつけの美容室の美容師に来ていただきカットをして頂いている利用者もいる。着替えはお好みにあった服を選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、炒め物、揚げ物、盛り付け等お手伝いをして頂いている。また、月毎行事等楽しい食事が出る様に心がけ行事食を提供している。	殆どの利用者が自力で摂取することができる。食事の形態については一口大にしたり、ミキサー食にする方がいるが多くの方は常食となっている。献立は法人の栄養士が立てたものをアレンジして調理し、家庭的な料理を心掛け、出来立てのものを温かいうちに食べていただくようにしている。利用者のお手伝いについては野菜の下処理、茶碗拭きなど、一人ひとりの力量に合わせて参加していただいている。行事の際には出前を取ったり、「おはぎ」や「チラシ寿司」等を手作り楽しんでいる。また、家族と外食に出掛ける方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をもとに調理している。食事量・水分量は毎食記録し体調管理に活かしている。必要なご利用者様には介助したり、ハサミでカットし摂取しやすい様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で出来る方は声かけ見守りを行い、必要な方は義歯を外して介助を行い口腔状態の確認をし、一人ひとりに合った援助で清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄努めている。自力でトイレに行かれる方はさりげなく失禁の有無を確認しパットやリハパンの交換を支援している。自力でトイレに行かれない方には定時で声掛けをし排泄の失敗を減らせるように配慮している。歩行状態の悪い方には夜間ポータブルトイレを利用している。	殆どの利用者がトイレで排泄している。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、定時でのトイレ誘導をするともに排泄表を参考に一人ひとりの様子を見なが早目に誘導するようにしている。布パンツの方が半数弱で、リハビリパンツのみ使用の方が三分の一、リハビリパンツとパット使用の方が若干名となっている。パット交換で職員の介助を必要としている方が若干名いる。排便については3日間ない場合にコントロールを行い、「お茶」「牛乳」「レモンティー」「スポーツドリンク」等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄をされたら必ず記録し一人ひとりの排便間隔を把握し便秘にならないように注意している。水分を多く摂取していただき水分不足にならないように気を付けている。出来るだけ下剤を使用せず自然排便ができるように支援をしている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や希望に合わせて週2回以上は入浴ができるように声がけをしている。個々合わせて声がけ、見守り、介助を行い温泉の特徴も伝えて楽しんで入浴していただいている。	ほぼ自立している方と全介助の方がそれぞれ若干名ずつで、見守りを含めて一部介助の利用者が半数強となっている。入浴拒否の方もなく、週2回の入浴を行っている。広い浴槽にゆったりと浸かり、硫黄の匂いが漂う天然温泉を楽しんでいる。また、共用型通所デイサービスの利用者も利用日には入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望に沿って疲れが見られる方は、午前午後関係なく休んでいただく。基本は夜間ぐっすり休めるように日中は一人一人の生活習慣に沿って活動して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、薬剤情報共有書ファイルで確認し理解に努めている。症状の変化により薬が変わる時は看護職員と連携を取り職員全員が把握するように情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を見出し援助している。季節を感じて頂けるようドライブや納涼祭、クリスマス会等楽しい食事ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、お散歩や買い物に出掛けたり。以前通っていた教会や展示等の外出、外食がしたいなどのご希望を伺いながらご家族・地域の皆さんに協力いただきながら支援している。	外出時、自力歩行の方が三分の二、車いす使用の方と杖歩行、歩行器使用の方がそれぞれ若干名ずつという状況である。天気の良い日には玄関前の庭に出て外気浴を楽しみながら、草木の生長や季節の花々を楽しんでいる。利用者が交替で、職員ともにおやつや足りない食材、必要な日用品の買い出しにスーパーに出掛けることもあり、家族と外食に出掛ける方もいる。また、ドライブを兼ねて少人数で「坂城町のバラ公園」や「上山田温泉の夏祭り」見物等に出掛け、季節感を味わっている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金を持つことの大切さを理解し、管理が出来る方にはお金を持っていただき必要時支払いを行っている。また、一緒に外出して買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来た際は、ご家族に電話をしたりご本人に取り次ぐ支援をして、ゆっくりとお話をして頂いている。手紙が届いた際には、お渡ししたり読んだり、お返事したり支援している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等、使用中はカーテンや声をかけ確認しプライバシーの配慮をしている。リビングは大きい窓があり、カーテンの開閉にて光、暑さ等、調整している。また花や行事などの装飾を行い季節感を出したり、室温調節に気を配っている。	当ホームは純和風な料亭をリノベーションした建物で、落ち着いた雰囲気を醸し出している。玄関前の庭には丹精込めて育てた庭木と季節の花々があり利用者の寛ぎの場となっている。玄関を入ると行事や活動の様子を映した写真がバネル一杯に貼られ、活動の様子を窺うことができる。食堂は適度な広さが確保されており、隣には床の間・掘り炬燵などがある畳敷きの日本間もあり、家庭的な造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはソファを置き、一人になれたり、気の合った方同士一緒に過ごせるような空間がある。リビングの座席は利用者同士の関係性を見ながら席の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた日用品や家具をお使いいただけるようお話し、ご持参いただき安心して生活できるよう配慮している。	居室入口には旧上山田町の、町名の表札が掛けられており、懐かしさが感じられるとともに識別が可能となっている。掃除が行き届いた居室は清潔感が漂っている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたイス、テーブル、衣装ケース、ハンガーラック等が思い思いにレイアウトされ、エアコンも設置されており、居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はなるべく段差を少なくしたり、廊下やスロープ等には手すりを設置している。各居室やトイレなど確認できるように表札などで案内しているが迷っている際にはさりげなくお声かけしたりご案内して不安なく過ごせるように支援している。		